

令和7年度第4回向日市男女共同参画審議会 議事要点録

○日 時 令和8年3月17日（火）午前10時00分から午後0時00分まで

○場 所 永守重信市民会館 第3会議室

○出席者

（委員）

竹井委員、大束委員、岩野委員、岡田委員、松井委員、森田委員

（事務局・説明員等）

ふるさと創生推進部副部長兼広聴協働課長 松石、係長 松本、副係長 堀野、
委託事業者（株式会社グリーンエコ）

○その他出席者 傍聴者なし

○会議概要

議事内容

（1）第3次向日市男女共同参画プラン改訂版（案）に係るパブリックコメントの結果について

第3次向日市男女共同参画プラン改訂版（案）に係るパブリックコメントの結果について事務局から説明を行った。

（2）第3次向日市男女共同参画プラン改訂版（答申案）の決定について

第3次向日市男女共同参画プラン改訂版（答申案）について事務局から説明を行った。

（3）令和7年度男女共同参画推進事業 報告について

令和7年度男女共同参画推進事業報告について事務局から説明を行った。

（4）令和8年度男女共同参画推進事業 概要について

令和8年度男女共同参画推進事業概要について事務局から説明を行った。

【意見の要旨】

一議事内容（1）について一

委 員： パブリックコメントにあった「夕食のデリバリー化または手軽な金額で夕食を食べることのできる施設」について、実際に実施している自治体はあるか。

事 務 局： 高齢者向けの配食サービスはあるが、子育て世帯への同様の施策は聞かない。類似するものとしてはこども食堂があり、こども支援の視点で広く実施されている。

一議事内容（2）について一

委 員： 答申案1ページのプランの目的と63ページの計画のめざす目標と基本

理念の関係性が分かりにくい。両者のつながりを示す文言を追加してほしい。

事務局： 63ページに目的との関係が分かるつながり文を加える方向で検討する。

委員： 68ページの成果指標一覧は見やすい。ただし基本課題7「通常保育事業（平日保育サービス）の定員数」が中間値・目標値ともに同一であり、なぜ上がらないかの説明を一言付記してほしい。

事務局： 令和12（2030）年度の保育需要が現状のキャパで十分対応できる見込みであり、出生数も大幅に減少しているため数字を据え置いている。説明文の追記を検討する。

委員： 68ページの成果指標一覧の上部リード文に、「成果指標は5年前（第2次プラン策定時）に設定したものを基本とし、中間見直しで達成済みのもものは目標値を修正している」旨を明記してほしい。

事務局： リード文の修正で対応する。

委員： 68ページに改訂版で新たに設定した成果指標が分かるよう、変更箇所に脚注を付けてほしい。

事務局： リード文に変更箇所がある旨を一文加える形で対応したい。

一 議事内容（3）について

委員： いきいきフォーラムの内容はどのようなものだったか。またチェックアンケートはフォーラム開催の前後どちらに記入されたか。

事務局： フォーラム冒頭に配布し、フォーラム終了後に回収している。
また、内容としては、桂雀太氏は自身の闘病経験も交えてトークショーに参加し、その後落語を披露した。

委員： アンケートの設問④、⑤、⑨で、男性の固定的な性別役割分担意識が約2割あることが気になる。フォーラム後の意識変化に期待したい。

会長： 参加者の年齢層を見ると70代男性が圧倒的に多く、自分の時代の感覚で回答している可能性がある。少数サンプルのため市民全体の意識として断定はできない。

また、資料4の8番、「男女の性差を無くす」ための対策事業」という事業名は違和感がある。「性差に基づく不利益・不平等をなくす」という趣旨が正しいはずであり、名称を改めてほしい。

事務局： 特定の事業名として公式に命名しているわけではなく、報告書の記載上の問題であるので、報告書の表記を修正する。

委員： 性的マイノリティの人権に関する取組が令和8年度から人権啓発事業へ移行するとのことだが、その経緯を教えてください。

事務局： 委員からこれまで「これは男女共同参画か人権か」との指摘を受けており、課内でも整理を行った。LGBTQ支援・啓発は人権の範疇と判断し、人権事業の予算で継続する。男女共同参画週間の講演会は、より男女共同参画に特化した内容にする方針である。所管課に変更はなく、事業は引き続き実施していく。

会長： 事業が減るわけではなく、すみ分けをするということか。

事務局： お見込みのとおりである。

委員： いきいきフォーラム実行委員会が「女性団体・リーダー等育成」に位置づけられているが、実行委員が女性リーダーや審議会委員へと育つ仕掛けをどう考えているか。

事務局： 理想は実行委員から、女性団体懇話会、審議会委員というステップアップだが、現状は毎月1回の運営が精一杯である。余裕が生まれれば次の展開も考えられる。

委員： 来年度もメンバーは継続するので、この審議会でもつながりを維持する仕掛けを考えていきたい。

また、あすもあマルシェの参加者数に95人～250人と大きなばらつきがあるが、その要因は何か。

事務局： 近隣市区で類似マルシェが重なった日は参加者が流れる傾向がある。ただし民間主催のイベントとの日程調整は困難である。

委員： 出店者がやりがいを感じるためにも、他のイベントと重ならない工夫や参加者増加策をさらに検討してほしい。

事務局： あすもあマルシェは売上達成が目的ではなく、起業の実践の場であり、基本は年4回通し出店できる方を募集している。

会長： あすもあは広報誌での特集前は認知度が市民アンケートで30%弱、利用経験者は5%未満だった。GoogleマップにもなかったのがGoogleマップ登録を自分で行った。今後も継続的な広報強化が必要ではないか。

事務局： 令和8年3月号広報に特集を掲載した。広報誌が最も周知効果の高い媒体であり、利用向上を期待している。

委員： いきいきフォーラムに2年連続参加した。今年は落語のテーマが功を奏し高齢男性も多く参加した。実行委員の方がトークショーの司会を見事にこなしており、そのような有能な市民が向日市にいることを頼もしく感じた。

委員： 専門家でない一般市民の目線では資料が難しすぎて理解が難しい。例えば財産区・農家組合への女性登用という話も、財産区自体を知らない市民が多い。あすもあも認知されておらず、男女共同参画という言葉自体の意味も伝わっていない。困っている市民にピンポイントでアプロー

ちし、それが施策につながっているという形にしないと、一般市民には伝わらないと感じる。

会 長： 女性委員のいない審議会（財産区など）に対しては、委員を招いてこういう場で話すなど直接働きかけをしないと意識は変わらない。町内会会長も同様で、積極的な関与が必要である。

委 員： 女性活躍センターあすもあは使いやすい施設だと感じており、まだ利用に関して余地があるように見える。活用を広げる考えはあるか。

事 務 局： 上述のとおり広報誌特集を組んだ。今後さらに認知度向上を図る。

—議事内容（４）について—

委 員： 庁内推進会議が今年度３回とも書面開催だった。来年度は対面で実施できないか。

事 務 局： 来年度は対面を予定している。ワーキンググループは常時対面で実施しており、推進会議が対面困難な場合もワーキングから情報共有する体制を整える。

委 員： 今年度は１回のワーキング会議が来年度２回になっているのはなぜか。

事 務 局： 本館・東向日別館で勤務する職員に同じ説明をするため、状況によって２か所で開催する可能性があるため、内容は同一・個人は１回参加となる。

事 務 局： 先ほど会長から指摘のあった事業名「男女の性差を無くすための対策事業」を「ジェンダー平等社会の実現のための対策事業」に修正することを提案する。

会 長： 了承する。